

平成30年 第2回定例会

(6月19日)

一般質問資料

(2回目)

自由民主党千葉進取の会
向 後 保 雄

平成30年 第2回定例会（6月19日）

一括質問

通告時間：20分

1 成年後見制度利用促進法について

初めに、成年後見制度利用促進法についてご答弁ありがとうございます。

一つ目の計画の策定状況或いは検討状況についてですが、単独の計画策定はしていないとのことで、今年度からの3か年高齢者保健福祉推進計画・第7期介護保険事業計画の中に権利擁護体制の充実に関する項目を盛り込み成年後見支援センターを中核として市民への啓発、広報、市民後見人の養成、地域連携ネットワークの構築に努める、そして今後3年間の状況を踏まえ、権利擁護体制の計画の充実を図って行くとのことをご答をいただきましたが、本来であれば千葉県唯一の政令市として他の市町村のお手本となる単独の計画を策定してほしかったところです。

二つ目の、計画策定の中で協議会の設置についてですが、ご答弁では、司法関係として弁護士、司法書士、社会福祉士等の関係専門職団体との意見交換を行い、次年度の協議会設置を目指して検討して行くとありますが、財産管理についての専門家である公認会計士や税理士は当然専門職としての認知はされていると思いますので、これらの士業も選択肢に含めたところで専門職団体への意見交換をしていただきたいと思います。ちなみに千葉県税理士会には、公益的業務を担当する部所がありますので、お金の問題ではないので市民貢

献事業として、是非とも協議会対象団体の専門職団体に加えていただきたいと思います。

三つ目の、市民後見人の人数の現状についてですが、平成29年度末の登録者が107人でそのうち活動しているのはわずかに6人とのことです。これは、専門的知識がないとか様々あると思いますが、次の問いの後見人の不正防止対策についても関連しますので、まとめて次のご答弁についても意見を申し上げさせていただきたいと思います。四つ目のご答弁では、不正が目立つのが親族後見人の場合とのことです。これは、いずれ相続で自分たちのものになるとの安易な考えで不正をしてしまうとの考えが根本にあると推察されますが、これらを解決するには、市民後見人の研修の充実、とりわけ、財産管理における帳簿作成の手法の習得と、それによる管理技術の習得の研修することが必要不可欠であると考えます。是非とも研修に公認会計士や税理士による記帳と帳簿付けの技能の習得をカリキュラムに入れていただくよう強く要望いたします。

今後益々高齢者が増え、認知症高齢者が増えてくることが予想される中で、成年後見制度の利用促進は必須です。是非ともいち早く協議会の設置をする上に於いて、専門職団体との意見交換は必要不可欠ですので、ご検討を強く要望をして次に移ります。

2 第2回千葉氏サミットについて

次に第2回千葉氏サミットについてですが、ご答弁ありがとうございます。一つ目の過去2回のサミット及び昨年のフォーラムの参加人数の推移についてですが、1回目サミットが参加者700人に対して今回の2回目は560人ということですので、2割ほど減少したということですが、近藤成一教授の記念講演は定員400名のところ応募が約430人来たということですから一概に減ったとは言いがたいのではないかと思いますし、1回目に来た方が2回目にも来ているのかとか、様々な検証をしなければわからないと思います。大切なのは多くの市民に源頼朝を助けて鎌倉幕府成立に力を貸した関東の筆頭御家人であった千葉氏の活躍やその功績を認識してもらい、千葉氏に親しみと誇りを抱いてもらって、結果として千葉市に郷土愛を持ってもらうこととあります。その為の施策を千葉氏顕彰会や千葉氏を語る会等の民間団体の協力を得ながら実施してゆくことが千葉氏の地元、千葉市がやるべきことだと思います。二つ目の記念講演において、東京大学名誉教授で放送大学教授の近藤成一先生をどこでどの様な基準で選定したのかについては、千葉氏が活躍した日本中世史を専門とする高い見識を持った方で本市にある放送大学で教授を務められている近藤成一先生を千葉氏サミット実行委員会において決定したとの事です。本

市に関わりのある方ということも考慮したとの事で、理解を致しました。千葉氏についてもっと詳しい先生もいると思いますが、それは置いときまして、私はたまたま所用があり記念講演を聞くことができませんでしたが、聞いた方の話では分かりやすくとても良かったし、近藤先生は呼んでいただければ無料で講演をしますよとおっしゃっていたとのことでとても親しみやすい先生でしたとの事で、高い評価をいただいたと感じました。ただ欲を言えば、本市が昨年12月に実施したwebアンケートによれば、千葉氏の事は様々なイベントで認知はされているが、4つのアイデンティティのうち千葉市に良い印象を与えているものはどれか、とのアンケートに於いて、加曽利貝塚、オオガハスは共に25%、海辺は35%なのに対し、千葉氏は11%ということで非常に低い結果となっております。そこで、千葉常胤の大きな功績を夢と希望をもって認識してもらえそうな仕掛けが必要だと思えます。地元の千葉市が千葉常胤をあらゆる機会において英雄として広報することは誰からもやりすぎだと非難されることはないはずですから、是非このような意識を持って施策を実施していただくよう要望致します。今回の近藤先生はちゃんと常胤をしっかり持ちあげてくれたようですので講演を聴いた市民の皆さんも千葉常胤に良い印象をもってくれたと確信いたします。

三つ目の、千葉開府 850 年を記念して始まった親子

三代夏祭りを、「千葉開府まつり」や「千葉氏まつり」とせず、「親子三代夏祭り」と命名した理由については、そもそも1975年の昭和50年にすさまじい勢いで発展を続けている千葉市に市民総参加の祭りを実施するにあたり、ふるさとの良き思い出を親から子へ。子から孫へと代々伝えられることを願って、「市民がつくる65万人の親子三代夏祭り」と名付けられ、翌年の千葉開府850年を記念として「千葉の親子三代夏祭り」と名前が改められたとの事で、最初に始まった時の思いが親から孫まで代々続いてゆくことを願って親子三代夏祭りという名前になったとの事で理解を致しました。今後は、親子三代夏祭りの中で、千葉氏の功績を讃えるようなイベントを実施していただき、2021年の市制施行100年、そして来るべき2026年の千葉開府900年に向けて市民の意識の盛り上げを目指していただくよう要望致します。

四つ目の、千葉氏の語り部については、郷土博物館において約70名の展示解説ボランティアが来館者に対して年間2800回の解説を行っているとの事です。今後2020年のオリパラを機に多くの外国人が本市を訪れるわけですから、外国語での通訳者も是非とも準備していただきたいと思います。そしてご答弁にもありましたように、より多くの方が千葉氏について語る事ができることは千葉氏の存在を根づかせる上において重要なことと認識しているとの事です。ですから、予算を増や

していただき千葉氏の語り部「常胤くん」を養成するための講師陣、講座のカリキュラム作成等講座開催体制を整えていただくよう要望致します。

五つ目の、キャラクターの公募については、その効果や既存のキャラクターとの競合状況、そして期待される効果について引き続き研究してゆくとの事ですので、前向きに検討していただけるようお願い致します。

「千葉氏くん」や「常胤くん」がキャラクターとして活躍することを期待しております。

最後に、今回の第2回千葉氏サミットを終えての総括についてのご答弁ありがとうございました。初日には、「相馬野馬追」の騎馬隊と共に千葉氏ゆかりの自治体の首長が騎乗して騎馬武者行列や中央公園でのイベントを行い7,200人の来場者を迎え、その後関係自治体首長による今後の連携をいかに進めるかについてのサミットが開催され、今後の連携が議論されたとのこと。2日目には記念講演とパネルディスカッションが開催され成功裏に終了したと感じました。ご答弁によると、次は2026年の千葉開府900年に向けてとありましたが、まだ8年も先の話ですので、その前の2021年の市制施行100周年の節目に第3回の千葉氏サミットを開催し、千葉開府900年への気運の盛り上げを目指していただきたいと思います。とにかく千葉氏の地元としての施策実行を期待いたしまして一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。